



箱根駅伝 岩見秀哉くん

学校長 岡本 敏樹



保護者の皆様、地域の皆様、お正月はいかがお過ごしだったでしょうか。外出は控えての在宅がほとんどであったことでしょう。この外出自粛は全国的であり、そのためか1月2日と3日の箱根駅伝 TV 中継はすごい高視聴率になったそうです。

その箱根駅伝を走った青山学院大の岩見秀哉選手は市川町出身です。※左の写真は、web上の「スポーツ報知」記事画像より

岩見君が箱根駅伝を走ったのは計3回です。初めて出場した2019年は4区を走りましたが、低体温症となりまさかの大ブレーキ。この年の青山学院大は総合優勝を逃しました。彼の精神的ダメージは大きく「自分のせいで負けた」という思いが長期間続き、そのストレスから体中に帯状疱疹ができていたそうです。練習でも焦りからオーバーワークになってしまい、故障を繰り返しました。その年の後半になってなんとか復調しています。

2020年、箱根駅伝に再び出走。復路の8区を快走して見事に前年のリベンジを果たしました。先頭をひた走って青学総合優勝の立役者となっています。

2021年、今年も同じ8区を快走しました。7位で受けたタスキを5位まで押し上げ、青学の復路優勝に大きく貢献しています。

彼は卒業後は「住友電工」にて、競技を続けます。来年は1月1日のニューイヤー駅伝（実業団対抗）にて勇姿が見られることでしょう。彼はトップレベルのランナーです。

【瀬加小運動場と寺家のトンネルで練習】

彼は小学3年生から、この瀬加小学校の運動場で走っていました。彼の家は鶴居の屋形ですが、週2回（水・土）の「スポーツクラブ21瀬加」に来ては瀬加の子たちと楽しく走っていました。雨天時は寺家のトンネル内の歩道を走りました。指導者は寺家の津田義和さんです。

通常のスポーツクラブに加え、中学生だけはさらに寺家のトンネルにて週2日の夜練習を追加していました。その当時、瀬加中学校がまだ存続しており、瀬加中学校は県下で最小規模でありながらも、県駅伝大会に出場し大規模校と対等に競い合っていたのです。

さて、走るのが大好きな岩見君が進学した鶴居中には陸上部はありません。なじみある瀬加中にも陸上部はありません。そこで彼は福崎西中の陸上部に所属しながら、夜には度々瀬加へ来ては津田さんの指導の元で走っていました。中学時代の彼は、とても小柄でしたが驚異的な無尽蔵の持久力がありました。

なぜ私がこんなに知っているのかというと、その当時、私は津田さんの指導補助をするとともに、自分もおっさんランナーとして中学生と一緒に走っていたからです。

※それは10年前のことです。今では体重が当時より15kgも増えてしまい見る影もありません。

【須磨学園高校 播但線始発5:07（鶴居）で登校】

岩見君は神戸の板宿にある須磨学園高校に進学し、全国高校駅伝大会（都大路）を走っています。

須磨学園高校までは岩見君の自宅から2時間半近くかかります。播但線の始発（鶴居を

5：07)に乗って毎日通いました。駅と自宅間は親の送迎です。この電車の姫路着が5：41で、次は山陽電車に乗り換えです。「梅田行き直通特急」に乗り、6：51に板宿着。そこから徒歩15分で学校着。これで陸上競技長距離部の朝練習に何とか間に合います。

放課後にはさらに本格的なきつい本練習が待っています。帰りの時間は日によって違いますが、鶴居駅には午後8時半～9時頃になることが多かったです。帰ったら遅い夕食・風呂・そして「ボタンキュー」です。こんな毎日なので、往復の電車の時間を勉強時間にして、学習と部活を両立させていました。

またまた、なぜ私がここまでくわしいのか。それは、私の次男が岩見君の1学年上で、小学校時代からずっと一緒に走っており、高校も同じ須磨学園の陸上競技長距離部だったからです。もっとも私の息子は岩見君のような一流ランナーではなく、高3の夏には競技を引退したのですが、親交は大学進学後もずっと続いています。



上記のようなつながりとともに、さらに私は、岩見君の父親と姉ともたいへん懇意です。多くのつながりがあり、岩見秀哉君のことはとても他人事とは思えません。彼が駅伝を走っていたらTVの前で心配しながら、完全に保護者目線で見えています。地域の皆様方、市川町民として岩見秀哉君の今後の活躍を応援してやってくださいね。お願いします。

岩見君の話の流れで、次に市川町出身の有名スポーツ選手を紹介します。

市川町出身のプロ野球選手 宮本賢治さん

市川町出身のプロ野球選手が宮本賢治さんです。鶴居小→鶴居中→東洋大付属姫路高校→亜細亜大学→ヤクルトスワローズという経歴です。1959年生まれなので、現在62歳でしょうか。今は当然引退されていますが、ヤクルト一筋で活躍されたピッチャーです。昨年亡くなった野村克也さんがヤクルト監督としてID野球を展開していた頃、2度の日本一にもなっています。市川町出身のスポーツ選手としては、彼が一番有名でしょう。

彼は高校時代（東洋大姫路）には、甲子園（夏）で優勝していますが、その時はひかえのピッチャーでした。東洋大姫路には松本という大エースがいたからです。阪急ブレーブス（当時）に入団した剛球投手です。宮本賢治さんは、大学で着実に実績を上げ、ドラフト1位でヤクルトに入団しました。その後ヤクルト一筋で、先発にもリリーフにも活躍し1996年（37歳）に引退されました。その後もまたヤクルト一筋で、スカウトや2軍監督をされています。（参考資料 Wikipedia）

さて、次には瀬加小出身のスポーツ選手ではどうでしょうか。つい最近では、青木勇真君の応援垂れ幕が役場にかかっていたのをご存じでしょうか。

瀬加小出身 青木勇真くん《バレーボール》



青木勇真くんは春高バレー（全日本バレーボール高等学校選手権大会）に出場しました。青木勇真君は、この瀬加小学校出身で、豊富中→鳥取中央育英高校へと進学しています。中学校時代にも全中（全日本中学校バレー）に出場しています。鳥取中央育英高校というのは、かつての由良育英高校で、私立ではなく県立高校です。彼は下牛尾・河内の青木克己さんの息子で、現在高校2年生です。身長176cmでバレー選手としては小柄ですが、ジャンプしての到達点が高いアタッカーです。来年度は高3になるので、チームの主力としてさらなる活躍が期待されます。

瀬加小出身者には、野球やラグビーでも活躍した人がいます。また機会を見つけて「瀬加スポーツスーパー列伝」として紹介できたらと思います。文化面から「瀬加学問芸術スーパー列伝」などもいいですね。